

あとがき

今回の「紙つぶて」掲載のお話を中日新聞からいただいたのは、今年五月のことだった。二〇〇五年十二月に始めた「テリーの徒然日記」というブログが連載千回達成したのを記念して、二〇一七年末に冊子を作ったのだが、それが中日新聞の記者の方の目に留まって、このお話をいただいたようだ。

毎週水曜日・六カ月間・二十六回の掲載ということで、話題には困らなかったが、五百七十文字という枠に収めるのにいろいろ表現を工夫した。七月三日（水）に掲載がスタートした頃には、すでに二十六回分の原稿が完成していたが、中日新聞の御要望などによって追加の原稿を作ったので、結局合計三十二回分作って、六回分がお蔵入りした。

一九五五年の羊年生まれの私は今年で六十五歳になり、前期高齢者の仲間入りをし、人生百年時代のほぼ三分の二を生きたことになる。少しずつ昨日までできたことが、できなくなっているような気がするが、幸いなことに記憶力は衰えを感じていない。ただこの唯一の取りえは周りの人たちから必ずしも歓迎されているわけでもないようだ。

これからは今まで以上にいろいろな人に迷惑をかけて生きていくのかもしれないが、いつも好奇心を持ち続けて、明るく・楽しく・元気に生きる事が心がけていきたい。また人との出会いや様々な運に恵まれてここまで来られたので、これからも可能な限りいろいろな人たちとの触れ合いを大切にしながら、「生涯一ビジネスマン」として人生の最終コーナーを情熱的に駆け抜けたと思うっている。

この場を借りて掲載許可なく登場してもらった家族や先輩や友人たち、「紙つぶて」の掲載や冊子作成に御尽力いただいたCSR&コミュニケーション

ヨン部や総合デザイン部の方たち、原稿修正に尽力していただいた中日新聞の方たち、そして「紙つぶて」を毎週愛読していただいた社内外の多くの読者の方たち、そのすべての方たちに心から感謝申し上げます。

二〇二〇年一月吉日

小池 利和